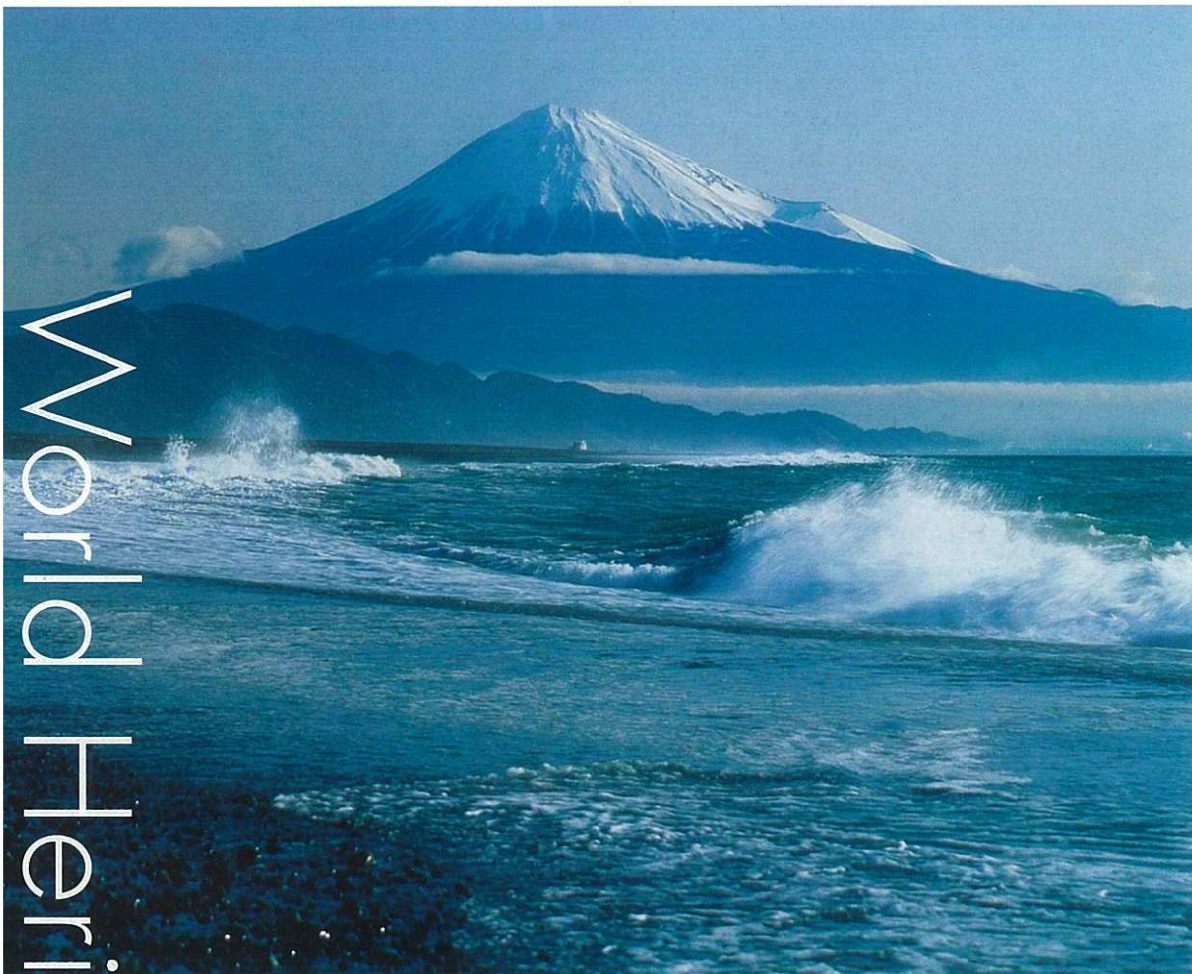


世界遺産ニュースレター

富士山を世界文化遺産に！



World Heritage

World Heritage News Letter

News List

- ◎第31回ユネスコ世界遺産委員会から
- ◎しずおか富士山シンポジウムから
- ◎なぜ富士山の世界遺産登録を目指すのか？
- ◎学術委員会での検討状況など

ニュースレター創刊!!

平成19年6月27日、第31回ユネスコ世界遺産委員会において「富士山」の暫定リスト登録が報告され、富士山は世界文化遺産登録に向け大きな一歩を踏み出しました。
これを機に、これまで以上に多くの方々に、より一層のご理解とご協力をいただくため、「富士山」と「世界遺産」に関する情報満載のニュースレターを創刊しました。

創刊号

Vol.1
(2007.11)

第31回ユネスコ 世界遺産委員会から

世界遺産 委員会とは？

世界遺産条約締約国が推薦する世界遺産候補資産の審査・登録や世界遺産リスト登録資産の保全状態の調査、危険にさらされている世界遺産リストへの資産登録などを行う委員会のことです。条約締約国のうちの21ヶ国（今回の議長国は、ニュージーランド）で構成されています。

富士山の暫定リスト登録の報告
本年1月、「富士山」は日本の世界文化遺産候補に選定され、「富士山」を追加登録した日本の暫定リストが、ユネスコ世界遺産委員会に提出されました。
そして、6月27日、第31回ユネスコ世界遺産委員会（ニュージーランド・クライストチャーチにおいて開催）において、暫定リスト掲載が正式に報告され、「富士山」は日本の世界文化遺産候補として新たな一歩を踏み出しました。



世界遺産委員会での審議の様子

富士山をPR!

富士山と信仰や芸術とのつながりについての富士山PR用のDVDや1枚で2種の富士山の美しい風景を見ることができるといふなど、委員会関係者に配布し、富士山の世界文化遺産登録をPRしました。富士山の海外での知名度の高さを改めて実感することができました。

また、その際、今回の委員会の議長から「富士山が暫定リスト入りしてよかったですね。早く本登録されるといいですね。」などのコメントをいただくことができました。



富士山グッズは海外でも大好評!

国内14番目の世界遺産「石見銀山遺跡」

(写真:「釜屋間歩」と「御取納丁銀」(島根県教育委員会 所蔵))



石見銀山遺跡の事例から

今回の委員会では、島根県の「石見銀山遺跡」が世界遺産に登録されましたが、委員会での審議が始まるまでは「登録延期」の可能性がささやかれるなど、登録までには紆余曲折があつたようです。

これまで日本が推薦した物件は、登録が確実視されたものばかりで、石見銀山遺跡のようなケースは、初めてのことでした。これは、世界遺産の登録数を抑制していきたいというユネスコの意向の表れと考えられ、今後、「富士山」が世界遺産に登録されるためには、「石見銀山遺跡」以上に高いハードルを越えなくてはならないことが想定されます。

3,000万人の人が眺めることができる高い山は、世界を見渡しても富士山の他にない。

モラルが低下した現在、環境問題の解決を図るには他人の分まで頑張らないといけない。富士山のゴミ問題についても、他人が捨てたからといって無関心でいるのではなく、自分たちの富士山だからこそ、落ちていくごみは拾うんだという気持ちで臨んでほしい。



数学者・大道芸人
ピーター・フランクル氏
(数学者・大道芸人)

富士山には美の原点がある。浮世絵の舞台にもなり、歴史的に見ても美というものの象徴になっている。一番最初に世界遺産になるべき山だった。

山体だけが象徴とされているが、ふもとの自然の美しさをもっとアピールしていいと思う。みんなが広報官になり、他県の人、あるいは海外に行った際には外国人に対して、富士山の魅力を存分に語ってほしい。



写真家
織作 峰子氏
(写真家)

富士山は風俗や文化のほか、人生観構築の礎になっている。富士山の神秘性、聖山の崇高性は日本人全体のものである。静岡、山梨両県だけではなく、われわれ日本人の山になっている。

富士山を守る方法は、地元住民が考えなくてはならない。世界遺産を目指しているのだから、その条約の原本を読み、理念をもう一度勉強しよう。



和歌山県高野町長
後藤 太栄氏
(和歌山県高野町長)

世界遺産登録に向け、行政任せではなく、私たちにもできることがあるはずがある。ごみ問題にしても、一人一人が活動することが意味を持つ。そして、富士山での取り組みは、課題解決のモデルとして全国に広がるかもしれない。みんなの富士山に対する想いを結集させよう。

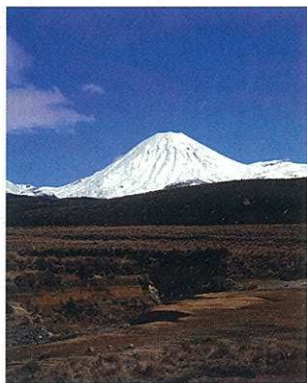


歌人
田中 章義氏
(歌人・国連環境計画・地球環境平和財団「地球の森プロジェクト」推進委員長)

しずおか富士山

シンポジウムから

平成19年7月14日、富士山の地元、御殿場市において「しずおか富士山シンポジウム」が開催されました。その際のパネルディスカッションで交わされた意見などの一部を紹介します。



トンガリロ国立公園(ナウルホエ山)

先住民マオリ族の聖地であり、文化的景観が適用された最初の世界遺産である。

◎世界遺産用語解説

文化的景観

文化遺産の対象で「自然と人間の共同作品」(自然と人間の交流をさまざまに表現するもの。)といわれるものです。文化的景観は、次の3つのカテゴリーに分類されます。

- ①人間によって意図的に設計され創り出される景観(例:ヴェルサイユの宮殿と庭園/フランス共和国)
- ②有機的な進化により創り出される景観
(長い時間の経過の中で形成された伝統的な土地利用の地域及び遺跡などと一体となって残存する景観の地域)
(例:フィリピン・コルディリエーラの棚田群/フィリピン共和国)
- ③信仰・芸術など人間の精神的活動により、重要な文化的意義を持つ自然の地域
(例:トンガリロ国立公園/ニュージーランド)

なぜ「富士山」の世界遺産登録を目指すのか？

世界遺産とは？ 1972年にユネスコ（国際連合教育科学文化機関）総会で決められた世界遺産条約（正式には「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」）に基づき、世界遺産リストに登録されている「顕著な普遍的価値」を有する物件（遺跡、建造物や自然など）のことです。世界遺産については、人類共通のかけがえのない財産として、国際的に保護・保全し、未来に残していくことが求められます。



美しい富士山を未来の子供たちに残すために

富士山の世界文化遺産登録を目指す理由

富士山は古より霊峰富士として聞かれ、富士山信仰が伝えられるとともに遠方より望む秀麗な姿が多くの芸術作品の主題となるなど、豊かな自然や美しい景観の中で文化を育み、日本人の信仰や美意識などと深く関連してきました。

富士山の世界文化遺産登録を目指す目的は、登録を目指した活動を通じて、県民の皆さまをはじめ多くの方々に、富士山について再認識・新発見をしていただくこと、これまで以上に富士山を大切に思う心を守るために必要な行動をしていただくことであり、もって、富士山が持つ豊かな自然、美しい景観及び富士山が育んできた多様な文化を、人類共通の財産として後世に継承していくことにあります。

学術委員会での検討状況など

〈学術委員会の開催状況〉 静岡県学術委員会

■区分/第1回
開催日/7月5日(木)

■概要

- ・委員長に川勝平太氏（静岡文化芸術大学学長、副委員長に土隆一氏（静岡大学名誉教授）を選出
- ・登録に向けた組織体制の確立
- ・保存管理計画検討部会、諸問題調査部会の設置を決定
- 〈委員意見〉
- ・富士山の象徴性について、さらに研究すること
- ・視察場についての調査を行うこと

■区分/第2回

■開催日/9月7日(金)

■概要

- ・富士山の世界文化遺産としての価値や構成資産等の検討
- ・富士山の範囲の考え方、構成資産候補案についての検討
- ・比較分析を行う類似資産案の検討
- 〈委員意見〉
- ・「山麓の独特の土地利用」の価値付け、富士山の普遍的価値の再構築が必要
- ・富士山の価値を表す幅広い構成資産をおさえること



静岡県学術委員会の様子

学術委員会とは？

富士山の価値や、その価値を証明する資産の選定を行い、確実な保護のための仕組みを検討することを目的に、学術委員会を設置しています。学術委員会は、静岡・山梨各県が設置する「県学術委員会」と、両県が合同で設置する「二県学術委員会」から成ります。

●富士山の価値を証明する資産について、県内の富士山周辺13市町に洗い出しを依頼しました。

提出された計198件の文化財について調査・検討し、25件の文化財を構成資産候補として提案しました。

●構成資産候補の検討

文化庁係官、静岡県学術委員会委員、関係市町担当者等とともに現地調査を行いました。また、保存管理計画検討部会（7月5日）、諸問題調査部会（7月27日）を開催し、幅広い視野から富士山の総合的な調査・研究を進めています。

二県学術委員会

静岡・山梨各県学術委員会の委員長・副委員長をはじめ、世界遺産に精通した学識経験者等で構成します。第1回委員会は、10月17日に開催しました。